

先輩に聴く (高校・環境科学科2年生を対象に講演した内容の抜粋です。)

私は東京大学法学部3年生の古野心乃香と申します。向陽中学校14期生です。東京大学の法学部で専門的な勉強に移ったところです。向陽では6年間吹奏楽部でした。東京大学は、すごく遠い存在の印象かと思いますが、私も東大って勉強のできる人がいくのだからって考えていました。でも、私が東京大学に行きたいと思ったきっかけは、中学校3年生で受けたベネッセ・鉄力会の東大模試です。もともと負けず嫌いな性格ですが、ここでE判定を取りまして、定期テストではそれなりに結構良い点を取っていたのですが、E判定になって悔しいって思ったのが中3の冬でした。中3の卒業式を迎える頃にコロナ禍に入ってしまった、いろいろ自分を見つめ直す期間が半年ありました。自分は何をしたいかを考えた時、英語が好きで将来海外で働きたいなと思いました。そこから自分で頑張ることを決めたいと、中学校3年生の最後に思いました。東大模試を受けるきっかけをもらった向陽の環境ってというのは、すごい良い場所だと思います。先生達は本当にみんなに選択肢を提供しようと、すごい頑張ってくれています。自分の将来についていっぱい考えて、これになりたいって思って選んでほしいなと思います。



### ○東京大学の印象

良い意味で裏切られたのは、案外そんなに天才は多くないってことです。みんな結構努力して、勉強ができるというよりもストイックという感じです。例えば1日数時間を他の人よりも努力する人が結構いたり、1個1個できることを増やして、毎日ちょっとした時間を目標につながることに費やしてきたって人が多いです。もう1つ良かったことは、授業が面白いことです。やっぱり東大の教授陣は素晴らしい経験と知識を持つ人たちで、マイク1本でスライドとか何も作らずに3時間喋り倒すみたいな教授がいたりします。日本のトップの技術者とか学者ってこういうことを考えているんだということを聴いてると、世界に近づいた感じがして、授業って楽しいなって思います。

### ○大学生としての今

私は1年生に入ってから打ち込んだ活動としてはゼミ活動があり、法と社会の人権ゼミという、30年以上東大で開講されているゼミがあり、1年間ゼミ長として活動に打ち込みました。2年生では、インドに1ヶ月半行ってきました。アイセックという学生団体が世界中の大学にあります。その団体の目標は、若者の可能性を広げることによって世界平和を目指すというものです。活動の一環として、去年の8月から9月の45日間、インドで活動しました。その間に、ジェンダー平等とか教育に関するプロジェクトで



インドでの活動



1ヶ月半を過ごしました。活動先で取り組んだプロジェクトとしては、SDGsの4番と5番です。クオリティ・エデュケーションとジェンダー・イクオリティ。貧しい子供たちに勉強を教えるっていうボランティアと、女性が経済的に自立を支援するプロジェクトも経験しました。これからは団体で取り組んだプロジェクトに自分の興味関心、つまり法律っていう視点を取り入れてみようと思っています。

大学での授業は受け身になりがちですから、結構何か自分で意識して活動をしなきゃ、すぐ4年間終わります。授業を受けてバイトしている間に終わってしまったみたいなのが大多数だと思います。自分だけの活動、自分が学んだことを何か社会に活かす活動は大学は用意してくれないので、自分で活動を起こす力は、ずっと大切にしたいと思っています。

### ○向陽で過ごした6年間

向陽のいいところは、自由がたくさんあるところです。部活動に打ち込んでもいいし、自分の興味があることなら何をしてもいいよという環境、雰囲気の良いところ好きです。中学生高校生の頃は、勉強の1本軸しかないような気がします。仕事を始めたりしたら、勉強は軸の1個でしかないの、自分の好きなこととかに割ける時間がある環境がすごくいいと思います。勉強じゃなくてもなんでもいいと思うので、それをずっと追いつけてほしいと思います。

向陽中・高校の雰囲気はいいなって思いませんか。80人ですごい知り合える仲間、心をそれなりに許し合える、ちっちゃい頃から知ってるみたいな仲で、先生もすごく協力的だし、本当に私たちのことを考えて進路相談を持ってくれるし、進路だけじゃなくて他の生活とか勉強習慣とか、私たちのためになることをやってくれる人がいる、その環境が私は人として成熟させてもらえた環境だと思ってます。日々学校行って、頑張ってるみんながいて、楽しいなっていう環境が、すごいいい環境だったと思います。

みんなで孟子フィールドワークや天神崎の磯観察に行ったりとか、実際に触れに行ったり、座学だけじゃない活動することは本当に大事で、勉強って知った気になりがちだから、自分の体験と結びつけることは大事です。自分でこうやって経験を伝える時に、見聞きした情報だけを伝えても生き生きとしない情報になる。環境科学科はとても体験を大事にする環境だと思うので、自分で触れて考えるっていうところを大事にする環境はすごいいいなって思っていました。



### 以下、生徒の質問と回答

○高校生の時に1日何時間勉強していましたか？

平日は5、6時間やって、土日は10時間以上はやってました。具体的にどうやって時間を生み出していたかという、ずっと座って5時間やってたわけではなくて、例えば朝、学校に着くまでの30分の通学時間は英単語をします。帰りも同時にやったら1時間くらい取れますよね。あと4時間どう作るかという、部活もやって8時くらいに帰ってきて、1時間でやることを終わらせて、9時から1時くらいまでやって・・・。

1時間は学校のスキマ時間で取ってました。お昼早く食べ終わったら単語帳を見たり、数学の課題を学校で終わらせるとか。座ってやるだけが勉強時間じゃなくて、本当にスキマ時間をたくさん使いました。英単語とか英語は、ぐんと点数伸びると思うので、スキマ時間で細かく何回も暗記物は見るようなことを意識してました。

○勉強のやる気を出す方法は？

なかなかやる気出ないから、スマホポチポチってありますよね。高校時代、勉強は受験のためのツールだと思っていました。目標は勉強することじゃなくて、東大に行きたいと思いながら勉強していました。日々の勉強に張り合いが出ないとか、なんとなくもうやめていいかなって思うということは、その目標をあんまり明確に持ってないというか、気持ちが追いついてないのかなって感じます。目標がやっぱりまだちょっと弱いかな。

他にもやる気が出ないっていうのは、技術的な問題で学習環境が大事だと思います。例えば教室で先生がいる状況でダラダラしませんよね。だから勉強に集中できる環境を作ることが大事で、勉強って毎日ルーティン化することが大切だと思います。毎日帰ったらすぐ勉強するでもいいし、お風呂入ったらすぐ勉強するでもいいし、私は友達とLINE電話とかZoomとかでつなげて何時からやろうみたいな感じで勉強したこともあります。

○努力する理由とは？

努力する理由かぁ。夢の探し方とか、そういうことですね。とにかくいろんな人に会ったりすることかな。自分から動くことが大切ですね。何かチャンスが舞い込んできたときに、自分は無理かもって思うことをやめてしまうようなことでも、いろんな人と知り合うことにつながっていて、それによっていろんな人と会うことで、この社会でどういうことがあって、どういう人がいて、どういうことをしていて、みたいなことを知ることによって、自分はこうなりたいって思えることがあったりするかなと思います。自分の殻に閉じこもるのではなく、なりたい自分を見つけられるかなって思います。そうやって夢って何かとか考えているうちに絶対大丈夫、絶対見つかると思います。

○今後の目標は？

私は政治家になりたいなって思って東大に行きました。大学のゼミで弁護士の先生と出会って、その姿にすごい憧れてしまって、今は政治家の夢を捨てたわけではないですが、勉強をして将来は弁護士になりたいなと思っています。その先で政治家になるかどうかはまだ分かりませんが、とりあえず今の直近の目標は弁護士です。勉強も毎日しています。大学入ってからも勉強の日々です。

